

環境・農村開発

15万本の植林は、16年前の
「南の島に木を植えて下さい！」から始まりました

「南の島に木を植えて下さい！」と寄附をいただき、アトモロック小学校の裏手の山に500本ほどのコーヒー苗を植えたのは、HANDS活動開始2年後のことでした。資金提供者はハンセン病元患者のKさんです。収穫したコーヒーをお届けして喜んでいただきましたが、その1回だけになってしまいました。先日、半年前に90歳の天寿を全うされたと知りました。

Kさんが入所されていた御殿場市の療養所には、南方の島で戦う中で、感染した方が何人かいると聞いたことがあります。ご寄付の背景には、南の島を戦場にしたことへの贖罪のお気持ちがあったのでしょうか。

数千本単位で、ロハス及びダグマ山系の山腹斜面に、環境保全と収入向上のためのアグロフォレストリー（森林農業）を始めたのは、農業専門家グループPFPがパートナーとなった2002年以降のことです。

以来、植えた苗木は、在来種約74,000本、ゴムや果樹苗など樹木作物もほぼ同数73,000本、面積は、385haになりました。樹間に自給作物を植えるため、ha当たり苗木数は通常の植林より少なく、熱帯林修復への貢献度は十分でないかもしれませんが、持続可能な生計手段を得ることで、住民は焼き畑拡大等による新たな森の破壊に加担することがなくなります。

今年もダグマ山系南部に位置するレイクセブ町の3地区、計95haで植林します。

ラムダラグ村：2年目のラムカニダン地区では、特に苗木の選定、早めの入手を心掛けています。去年タブロ地区で購入したゴム苗木が未熟だったため、移植が大幅に遅れたためです。（緑の募金公募事業）

タクネル村：今年の対象ティヌオス地区では、整地作業が終わり、受益者組合の役員も決まりました。代表は写真右から二人目のフレッドさんです。（地球環境基金助成）



タシマン村：1年目対象のシエテ地区では、10月の事業開始とともに、町の環境及農業課職員、地区代表の打ち合わせが始まりました。（三井物産環境基金助成）

コーン単作に戻っていた高原野菜事業地域
- ティボリ町スプ、フィタックの森林農業 -

先祖伝来の土地を安易に手放さないためにと、プランテーションの進出地域、スプとフィタック2地区で、2年前にモデル事業として実施した高原野菜栽培と、ゴム、ココヤシ、在来種植林からなるアグロフォレストリーは、市場へのアクセスがよくないためか、6月訪問時には、一部の畑は再びコーン単作に戻っていました。

際立った指導力で住民を引っ張ってきたエドイン神父が、転任したのが最大の原因と考え、新しく担当となったマーク神父には、住民が主体となって、継続的に取り組むための組織化に力を入れるように要請しました。

高原野菜作りには失敗しても、急傾斜地に植えたゴムの苗木やナラ、ラワン等の在来種苗木は、順調に育っていて、土壌流出を防ぐ効果は期待できそうです。

住民指導を始めたマーク神父から、スプ、フィタックの近隣の村モンゴカヨでも、アグロフォレストリー事業への参加希望者が70名いるので、10月末に、技術指導を予定していること。ノビシエートでは、多品種のコーヒーやカカオ苗木の育成、ミズによる土作り施設も造ったなど、意欲的なメール報告が届きます。その努力が空回りしないように、4年後に神父が転任後も、住民たちが主体的に事業を続けるよう、HANDSができることはないか、11月末のスタディーツアーでは、ツアー参加の皆さんと意見交換する予定です。

高原野菜事業参加者
ベポットさん（右）と
マーク神父。



ゴム苗木の移植作業は順調ですが・・・

ボルール村で実施中の小規模アグロフォレストリーは、農業専門家ボニファシオの指導でゴム苗木の配布も終了し、ほぼ順調ですが、事業主体BOSDAについては、組織として未熟な部分があります。来月の現地訪問時には、相談役をお願いしている元COWHED代表のメルチさんとともに事業地域を訪ねて、BOSDAメンバーと話し合いをする予定です。（WE21みどり助成）